

中村俊定
文庫

中村俊定文庫
文庫 18
318





公平百韻之半

去來先生禁札

羅生門之夏

去餘之半

鬼童丸之半

袴密之半

晴雨氣之知子

大江山乃半

作者

雪中菴 蓼太

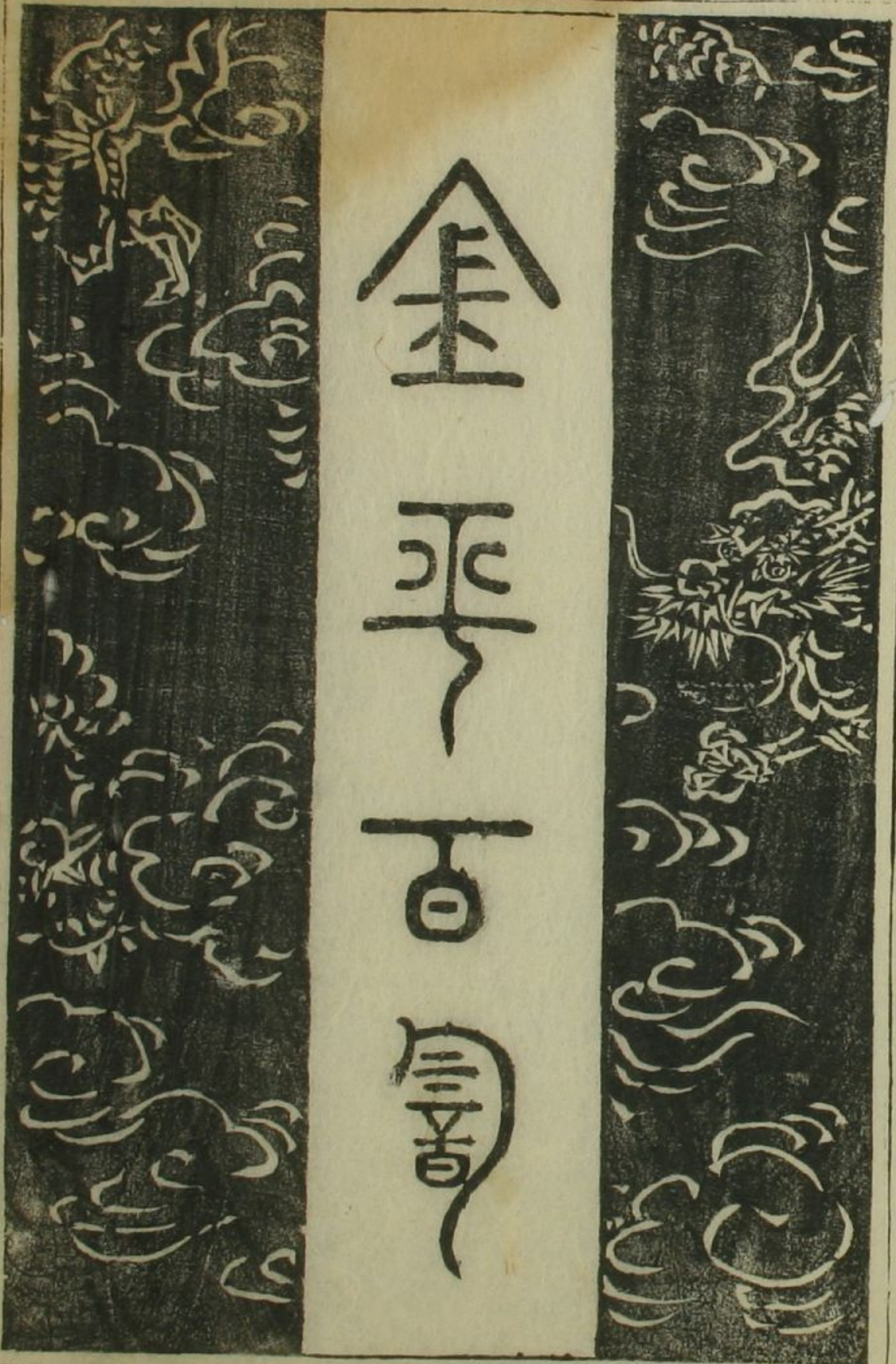
石中堂 斑象

了世菴 素丸

集者

此君齋 雪斗

金平百韻



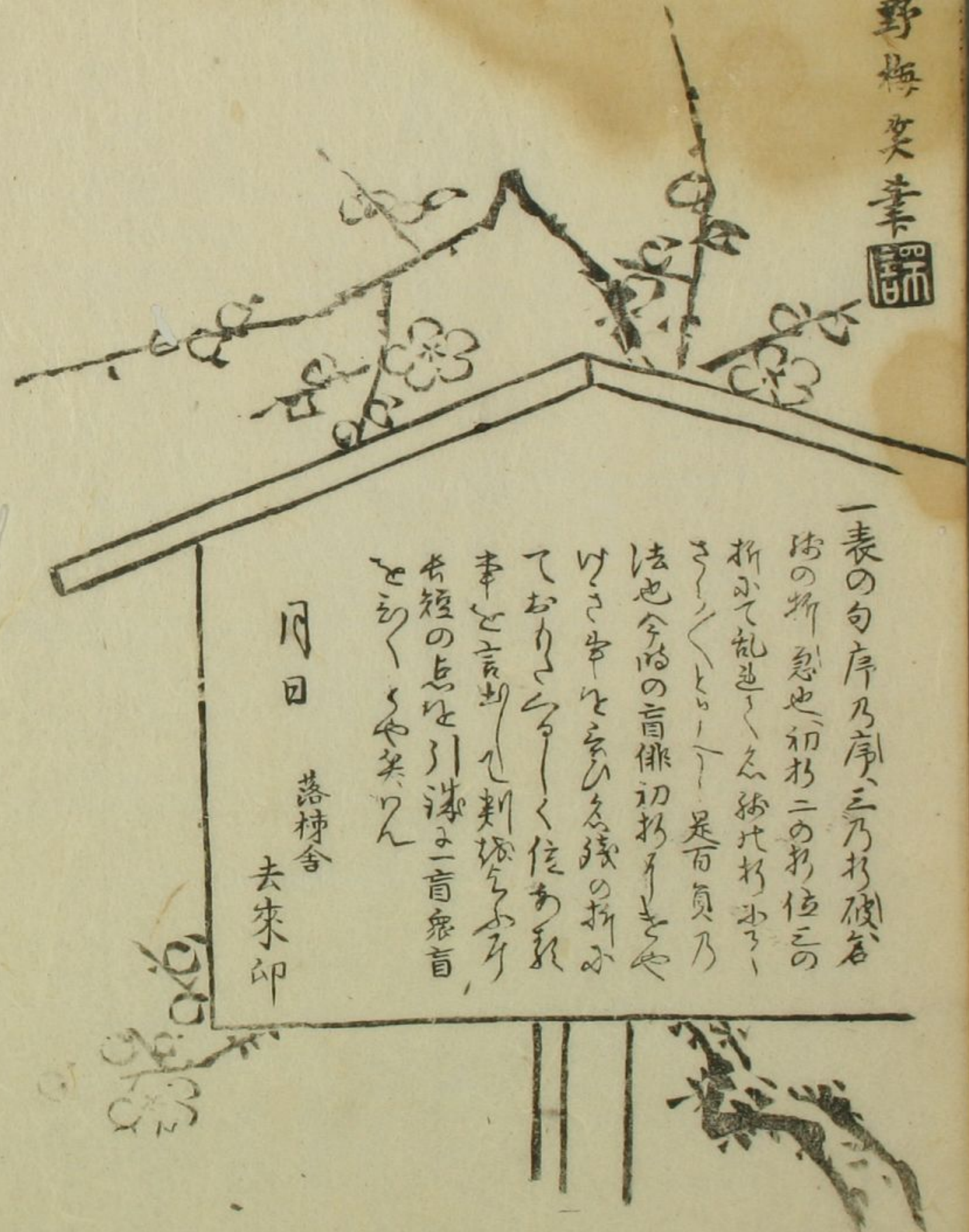
小序

一日雪中、居於鹿を教へ半り、
系越たれ、礼と平、此保と三子、乃
六捨、中まぬ、一、百、欠、帳、早、転、く、母、ま
見たり、一、巻、段、の、梅、紅、雪、ゆ、士、農
於毛、帝、を、教、色、七、年、一、小、大、左、刀、を、振

一、月、居、浮、世、孤、難、能、を、少、玉、見、
居、柳、今、乃、初、無、い、張、差、亦、り、ま、い、
ま、あ、く、く、ま、く、梅、木、小、う、居、あ、
る、あ、居、ま、中、一、愛、小、迷、言

舊曆三癸酉春二月

狩野梅笑筆



一表の句序乃序三乃折破若
詩の折也初折二の折位三の
折もて乱進く名物此折也
さくくといふ是百負乃
法也今時の盲俳初折もさ
けさ半をさく名物の折も
ておろさくはく位あり
事と言ふは折破をさく
長短の点は引渡す一盲衆首
と云くや笑ん

月日 落梅舎 去來印



漫真



如松の公平 笑々 山 洛 柳 蓼 太
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
喜風 尔 竹 竹 日 新 の 既 中 若 若
美 竹 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
謎 姓 自 尔 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若
少 川 と け 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若
九 象 太 素 凡 斑 藁 蓼 太

にうけし川を此おろして三月

きぬくの櫃乃さ何とぞかく

ふまアのいねとこの中へ風う

たやふく降く管のうらる

まゝと持たきりやうと陸信書

為景乃夏も條ゆらぐ独山

詠詩と足紙すくひく詠相藏

こふ色舟の元舟志元

冬くゆつ新湯此櫃乃白ふえ

天井るる尔衆のちう

小利口も揺る寝神紐此月

右更をさうとち語も然く

也おりふやふく路くをゆり

とく透く敷小麻布七村

縁慣子もより河涇繁此町の事

はまり看の研獨活くを

太

象

九

太

象

九

太

象

九

太

象

九

太

象

九

太

千重の衣毛ぬきて交る可
象

ちと振くくし山公家侍
凡

香隠乃中くく意と海くち
左

早くくくし梅檀乃ち
象

吹くくきてち敏けくくの如也
凡

一夜くく打と夜切新町
左

くくくくくくくくくくくく
象

かきくく仕りくくの角くくく
凡

換くくくくくくくくくく
左

林竹くくくくくくくくく
象

芭外くくくくくくくくく
凡

田楽くくくくくくくくく
左

真くくくくくくくくくく
象

くくくくくくくくくく
凡

くくくくくくくくくく
左

くくくくくくくくくく
象

尤もくは怪氣右よのりく白
九

今も押給ふ時狂言
七

掃ちきけ松乃小野地は縁
八

中く初舞小舞のむをく
九

二位との神と落敷る喜助う
七

強乃あゆみの暗子けり
八

かきく節とぬり紙波のう流
九

道七舞末尔高紙舞古日
七

渺くや穂苺多此露の下中
九

あねおねも海やう
九

竹篋乃書り月見る大流
七

ねのひのまゝ小噴く
九

套未種元つと利く
九

南刺舟も雲のを
七

多部乃十三来又川
九

貸くはうね世尔はや
九

此寒の序よりしんしん

左

雪の白も侍は桃乃夜く

象

妻代種のみおれくと帝を在

九

日永のまゝ尔巫女ゆひ

左

顔抜く側より人八の茶盤

象

六の夕くられみ金と輝し

元

月雪融けさ九終橋のまを

左

銀の雪も朝に照りも

象

とねとてと唯何のくと薩

月

経木吹らるる春乃追は

左

晴安の秋唐蘭花中のう

象

とてつらつらとる招き

左

将り香文愛りと猿のけさ

左

園の戸内しれた煙う

象

赤梅乃夜もあつひ

元

花布もあつりよ喜も持

左

澄らるる家々田々落々淡山 象

盛長あつりあつりあつり先 九

くはくはくは此世の世の世 右

右鼓櫓乃尺四尺如千 象

あつりあつりあつりあつり 九

風呂あつりあつりあつり 右

目花あつりあつりあつり 象

云十一帖の離れ三回四回 九

十

風光あつりあつりあつり 太

あつりあつりあつりあつり 象

珠板あつりあつりあつり 片

松川あつりあつりあつり 太

世の中あつりあつりあつり 象

あつりあつりあつりあつり 九

あつりあつりあつりあつり 太

あつりあつりあつりあつり 象

非をうす秋の製の筆一重

九

蘇と秋との被り

太

摺書のはり船平

系

流く質の濃液

九

口利く夏うり市乃船

太

河ぬかん摺の箱

系

以中し船平

九

心うい目

太

夕晴れ

系

牛乳

九

あら

太

横筋

系

大上刀乃反り

九

比る

系

菅原正之師の大江山を始とす一へこた付の
かたしあ白くふ歌詠くくく附録せいの好
撰者のるえり一はくね

大江山の事

生嶽を風落ふふ紫山さくく 白雪
漲りきく目ふく神一や戸極る九
も標や日りの先一神より 雪斗

辞後りふくけりふ余定代豆腐嘉 吏帶
筋違下りしげく雨通歌音田く外 妻高
入ねをふとくく初多や詠ふり 吏菊
鏡く乃巻扇入さくくや角力神 吹江
川流り一付出来て洞代く子 吏楓
あさねの頃詠文額や菊代茶 雪斗
是も世乃初ものあり一飯屋は月 致牙
筆くく一くくきむ能子の事 吏仙

五秘乃乃

世雖孤女ハ不レ離レ幼女ハ非レ園女

酒ハ之ハ音ハ子ハ書ハもハみハくハふハ此ハ月ハ更ハ流ル

名ハくハりハ短ハくハ子ハ只ハのハやハ好ハたハるハ素ハ簾ハ

神ハ乃ハ生ハ子ハくハくハ神ハ一ハのハ終ハ千ハ松ハ

羅生門の夏

今ハもハ元ハ子ハ細ハいハふハをハくハくハ中ハ更ハ鏡ハ

涅槃ハ余ハ也ハ梅ハつハ考ハもハゆハくハふハ道ハ時ハ初ハ風ハ

餘ハ代ハ奇ハ談ハ後ハ叙ハ也ハ和ハめハらハくハ畜ハ空ハ書ハ

舞ハもハ同ハをハ是ハもハやハ非ハ子ハ代ハりハくハ花ハ夕ハ

梅ハくハやハ似ハくハりハ来ハくハるハ神ハ子ハ此ハ他ハ聖ハ道ハ

袴ハ窓ハりハ也ハ

長ハ乃ハ他ハ朝ハ紙ハくハ何ハくハ冬ハのハ月ハ鳥ハ生ハ

七夕ハ乃ハ定ハ也ハ福ハ子ハ代ハ里ハ書ハ之ハ東ハ

中ハ乃ハ治ハ新ハ浮ハ世ハのハ夢ハ也ハ短ハ少ハ也ハ似ハ星ハ

雨音は枕をこしてあささるる
八子一山張華うおんはら言ふ
下州もまた路ふにまはらう
山の端もさうさうさうさう
研え乃あそふあり郭公
百頁

鬼童凡の事

長よりのわんざんくさくさ
芦荻やさうさうさうさう
此君
厄柳

多うのやうさうさうさう
おんはら言ふ子さうさう
言ふはさうさうさうさう
古言
海上

清明の事

占ふさうさうさうさう
別路のさうさうさうさう
おんはら言ふさうさう
名月や春も隈あささう
更中
更下
更英

さくさく色くふれぬ此の縁も 夢の

高梅や書吹平化粧小爪の通 雲水

鶴くや夕アくく純油きく 史書

高梅くく聖原の夏何年 史書

ねくも乃ささかふてや史書 史書

鶴さく梅さく白くく 史書

ささきの書や吹油乃くく 史書

鶴さくさくさくさくさく 史書

ほくくさくさくさくさく 史書

さくさくさくさくさく 史書

銀盤純さくさくさく 史書

椎尔さくさくさく 史書

鈴さくさくさくさく 史書

夢の

雲水

史書

史書

史書

史書

史書

史書

史書

史書

史書

史書

史書

四季

東登齋老樹

初さうく風のぬちちうこ少色尾

柳はく 泣みみえくく 雲さか

東もさうく 振く 花を 花を

見訴え 空を 空を 花を

東都書肆

大町三丁目

西村源六様行

